

つくりたい家

免許を取ってからずっと、すこし古いヨーロッパの小型車が好きでした。

好きな人には強い個性が感じられ、他の人には普通の実用車にしか見えず、生活に合目的に設計されていて、道具として使い込むのが似合う。

過剰な自己主張は無くても、思想を持って作られているように感じられます。私の設計もそのようにありたいと願っています。

- ・身体的にも、精神的にも、人にやさしいおだやかな家。
- ・人を驚かせるためでなく、そこでの暮らしのための家。
- ・たしかにそこに建っている、他にはない家。

土地の魅力をいかして、自然体で暮らせる気持ちの良い家を目指しています。

家を建てることは、価値観や人生設計を形にする作業に他ならないと思います。私の設計が、家族の物語を紡ぐお手伝いとなれば幸いです。



長浜 信幸

1964年11月12日 生

資 格	一級建築士（国土交通大臣登録 第267324号）
所 属	（社）東京建築士会会員 OZONE家design登録建築家
経 歴	昭和63年 早稲田大学理工学部建築学科卒業 平成2年 早稲田大学大学院博士課程前期修了 （都市計画戸沼研究室）
職 歴	平成2年～平成4年 （株）アーキテクトファイブ勤務 平成4年～平成7年 （株）環境デザイン研究所勤務 平成7年～平成10年 （株）田辺計画工房勤務 平成10年 長浜信幸建築設計事務所設立 平成11年～14年 早稲田実業学校国分寺校舎建築計画顧問
受 賞	第15回トータルハウジング大賞特別賞「大田原の家」 第9回あたたかな住空間デザインコンペティション 暮らしデザイン部門優秀賞「市川の家」

有限会社 長浜信幸建築設計事務所 一級建築士事務所
（東京都知事登録 第44703号）
169-0075 東京都新宿区高田馬場1-20-10・208
TEL 03-3205-1508 FAX 03-3205-1509
nagahama-archi@s6.dion.ne.jp
<http://www.nagahama-archi.com>



「豊橋の家」

～神社の緑を借景とした
スキップフロアの家～

家族構成 夫婦+子2人
竣工 2016年4月
所在 愛知県豊橋市
構造規模 木造軸組地上2階
敷地面積：212.99㎡（64.43坪）
延床面積：106.83㎡（32.31坪）

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き

壁：リシン吹

木部：ベイヒバ

主な内部仕上げ：

床 杉無垢フローリング

壁 珪藻土クロス

天井 ラワン合板

主な設備

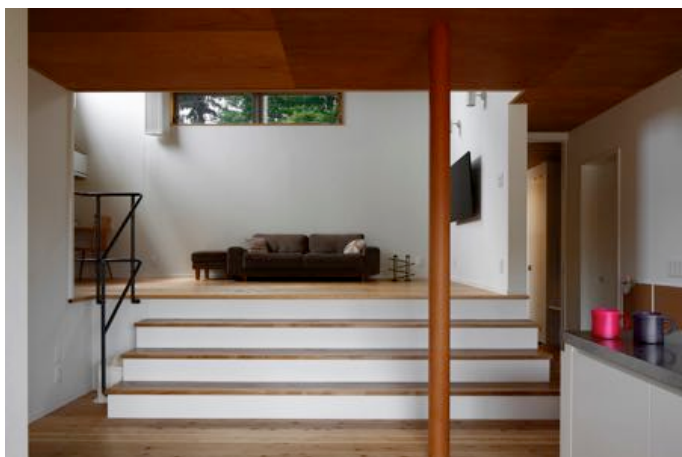
キッチン製作



豊橋駅にほど近い住宅地に建つ住宅です。北側には道路を挟んで古い神社があり大きな樹々が葉を茂らせていました。南からの陽光をたっぷりと取り込みたい一方で、北側の緑も生活の中に活かしたい。開放的な空間づくりをイメージする一方で参拝者の視線からはプライバシーを守る必要がありました。また「市川の家」をご覧になってご依頼下さった施主様はスキップフロアの空間づくりという確固としたイメージをお持ちでした。

そこで今回のケースでは、北側の神社に向かって1段高いリビングを設け、さらに窓を目線よりも高い位置に設けることで、屋内の視線を樹々や空に導くとともに、道行く人々からの視線を遮っています。北側に配置するディメリットを補うために、リビングの上を吹き抜けとすることで2階に射し込む陽の光がリビングにまで直接届くように考えました。

北側に吹き抜けを設けることで屋内の熱環境が心配されましたが、温暖な豊橋の気候と高い断熱性能とで、エアコンだけで一年を通じて快適に過ごせる家となっています。





「井の頭の家」 ～大きな天窓の家～

家族構成 夫婦
 竣工 2015年4月
 所在 東京都
 構造規模 木造軸組
 地上2階
 敷地面積 140.36㎡ (42.46坪)
 延床面積 105.63㎡ (31.96坪)

主な外部仕上げ

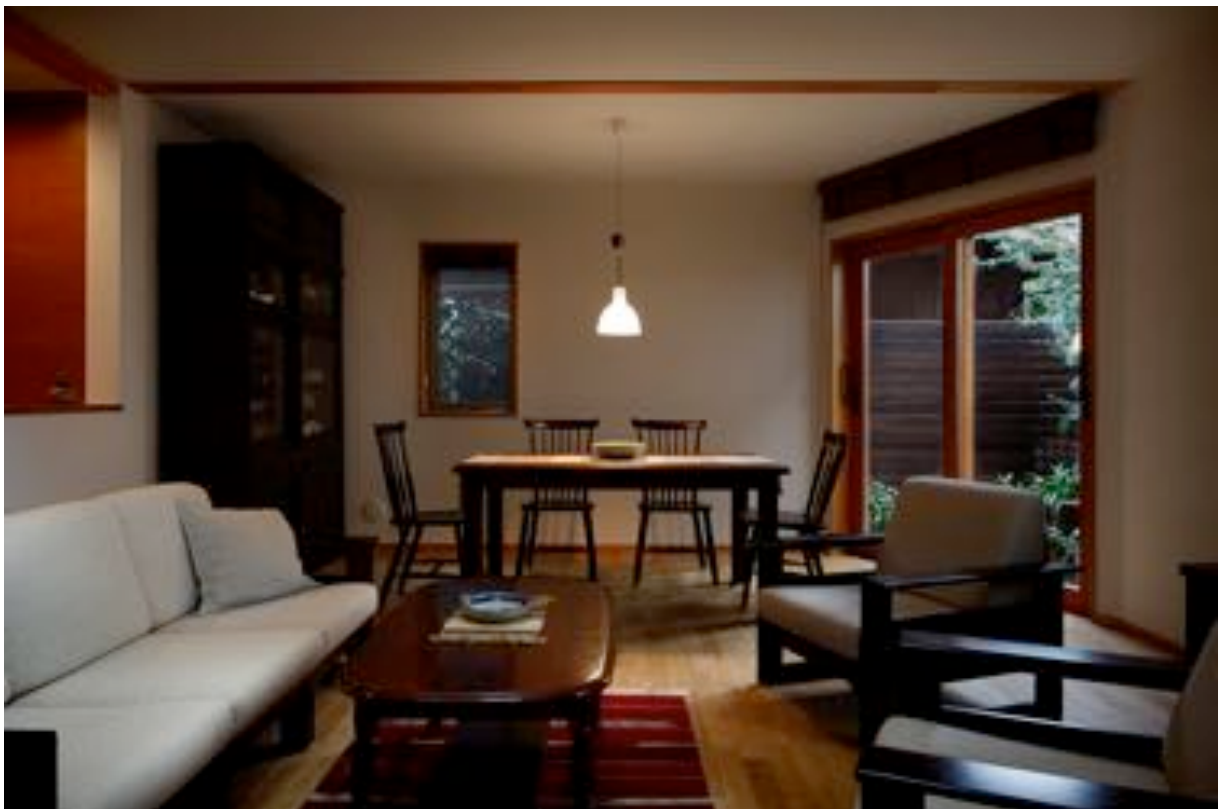
屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：ナラ無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼

主な設備

キッチン製作、温水式床暖房



子供達が独立し、改めてお二人での暮らしをスタートするための住まいです。

敷地は密集した住宅地内の旗竿状で奥まっており、明るい家が出来るのか大変心配なさっていました。

燦々と陽の入る家をご希望になる一方で、主に1階で生活できるようにとリビングや浴室を1階に配したため、光を取り入れながら、プライバシーを確保するには工夫が必要でした。

設計では敷地環境を丁寧に読み、周囲の建物の隙間を縫うように窓を配置、風通しや採光に加えて視線の抜けも得られるようにすることで、閉塞感の無い伸びやかな空間を実現しています。

これまでご夫婦で積み重ねていらした時間を引き継ぐ家とするために、仕上げ材料は厳選しています。タイル、カーテン、アクセサリー他、ショールームにご一緒したりサンプルを取り寄せたり、慎重に打ち合わせて選んでいきました。

新築でありながらも、落ち着いた、少し懐かしさの感じられるような家づくりができたのではないかと思います。





「市川の家」

～森に臨むコートハウス～

家族構成 夫婦+子

構造 木造／地上2 地下1

敷地面積 165.00㎡

延床面積 139.53㎡

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺

外壁：リシン吹付

レッドシダー材

主な内部仕上げ

床：チーク無垢フローリング

壁：珪藻土クロス

天井：ピーラー合板貼

主な設備

温水式パネルヒーター

薪ストーブ

キッチン製作





敷地は、北側に雑木林の残る郊外の住宅地です。それを眺めながら静かに読書を楽しみたいというのが奥様の最初の要望でした。一方でご主人は、友人を大勢呼んで中庭でバーベキューを楽しみたいというのが一番の希望でした。

静かに緑陰を味わう場所と、賑やかに食を楽しむ場所という、一見相反する空間でありながら、リビングの床を80cmほど高くすることで、ダイニングスペースとは明確に区別されながらも二つの空間が緩やかにつながり、それぞれに自分の空間を損なうことなくお互いの雰囲気をも味わうことが出来ます。

プライバシーを確保するために道路側をあえて閉じて、中庭を囲むプランとしましたが、家のどこからでも北側の雑木林を見通せるようにすることで、常に外を感じるものの出来る開放感に満ちた住宅となっています。





「吉祥寺の家」 ～緑陰を愉しむ家～

家族構成 夫婦+子2人
 竣工 2012年2月
 所在 東京都武蔵野市
 構造規模 木造軸組／地上2階
 敷地面積 226.61㎡ (68.5坪)
 延床面積 123.59㎡ (37.4坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：ナラ無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼

主な設備

キッチン製作、蓄熱式暖房機





東側を道路に面し、間口の広い恵まれた敷地に見えますが、奥に行くほど狭くくびれていく三角形に近い不整形な形です。敷地の奥には覆い被さるような大きな樹木が生えていて、元のお住まいでは湿気や落ち葉に悩まされていたそうです。

南側隣地は企業の管理地になっていて人の出入りもあるため、南に向かって開放的なプランとすることはプライバシーの事を考えると困難でした。そこで大きな窓を設けるのではなく、変形した敷地にあわせて雁行させた平面のそれぞれの面に程よい大きさの窓を設けることで、隣地からの視線をコントロールしやすく考えました。またその部分を吹き抜けとすることで、上部からの採光で必要な明るさを補うとともに、吹き抜けの壁に映える光や、見上げる梢の緑が印象的に感じられる、この家の象徴的な空間としています。

そこでは以前には迷惑な存在だった大樹が、風にそよぐ音や緑陰をもたらしてくれる、この住宅に欠かせないものになりました。

吹き抜けは家全体を結ぶ屋内空間の中心でもあり、家族が何処にいてもその気配を伝えてくれています。



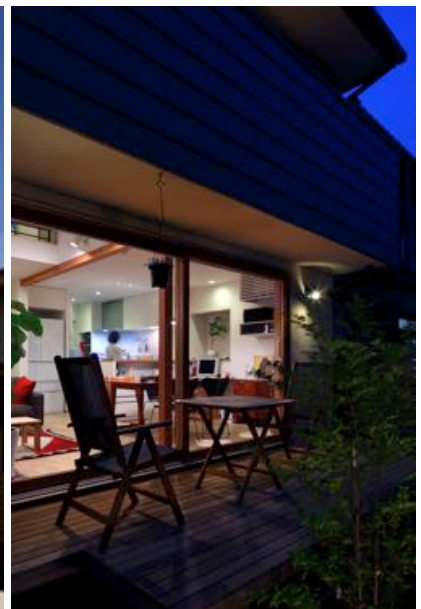


「向台町の家」

～小さな吹抜けと ペレットストーブの家～

家族構成 夫婦+子
 竣工 2014年2月
 所在 東京都
 構造規模 木造軸組
 地上2階
 敷地面積 131.17㎡ (39.67坪)
 延床面積 104.51㎡ (31.61坪)

主な外部仕上げ
 屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：ガルバリウム鋼板葺き
 リシン吹付け仕上
 木部：レッドシダー
 主な内部仕上げ
 床：カバ無垢フローリング
 ラーチ無垢フローリング
 壁：プラネットウォール
 珪藻土クロス
 天井：レッドオーク合板貼
 主な設備
 空気集熱ソーラー（そよかぜ）
 キッチン製作





少し郊外の住宅地の北西の角地に建っています。
 北側は道を挟んで畑が広がっていますが、反対に南側には
 隣家が迫っていました。
 日当たりや開放感を求めて2階をリビングにするか迷いま
 したが、小さな吹き抜けを中心に据えることで、家の各部
 屋のつながりをつくり、採光と通風、空1階のリビングか
 らも空への抜けを得ることが出来ました。
 熱環境の面でも、吹き抜けを昇るペレットストーブの暖気
 を、ソーラーシステムのファンが床下へと循環させること
 で、家全体に暖かさが行き渡る快適な屋内環境を実現して
 います。





「桜ヶ丘の家Ⅱ」 ～緑陰とピアノの家～

家族構成 夫婦
 竣工 2011年11月
 所在 東京都多摩市
 構造規模 木造軸組／地上2階
 敷地面積 165.05㎡ (50坪)
 延床面積 119.93㎡ (36坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：タモ無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板

主な設備

キッチン製作、蓄熱暖房機

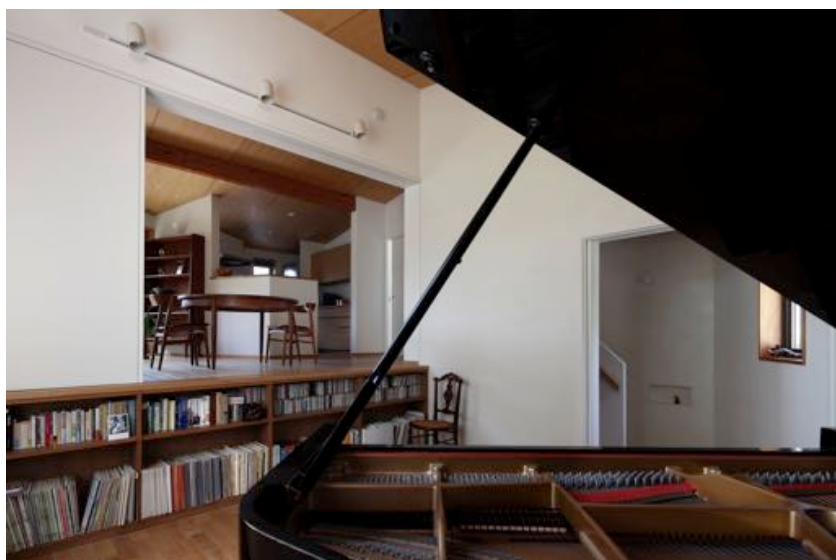


文学研究者のご主人とピアニストの奥様、ご夫婦のための住まいです。

敷地は小高い丘の上に切り開かれた分譲地の1区画ですが、敷地の奥には丘の下からも見えるほどの大きな樹が数本茂っていて、これらの樹木を借景として日常生活に取り込む事で、別荘で暮らしているかのような穏やかな住空間を作りたいと考えました。

ピアノを置く部屋には高い天井高が必要とされましたが、家全体のバランスに考慮して屋根を高くするのではなく、スキップフロアのように床を下げる事で空間を確保しました。ダイニングとの間は3連の引き戸で仕切る事が出来ませんが、普段は開け放して空間のつながりと視線の抜けを感じられる伸びやかな空間を作り出しています。

ピアノ室の階下はご主人の書斎となっていて、床と天井を作らない事で天井高さを確保しています。基礎の底盤を直接モルタルで仕上げた土間とし、天井も構造を現しにした結果、地下室のような独特の雰囲気を持った部屋となりました。蓄熱暖房器のおかげで冬にも冷え込む事がなく夏も涼しい快適な書斎です。





「大磯の家」 ～眺めの良い家～

家族構成 夫婦
 竣工 2010年4月
 住所 神奈川県大磯町
 構造規模 木造軸組 地上2階
 建築面積 52.30m²
 延床面積 103.35m²

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板たてはぜ葺
 外壁：モルタル下地リシン吹き付け
 デッキ：レッドシダー キシラデコール塗装
 木製サッシュ製作

主な内部仕上げ

床：クリ無垢フローリング蜜蝋塗装
 壁：珪藻土左官仕上げ
 天井：レッドオーク合板オイル拭き

主な設備

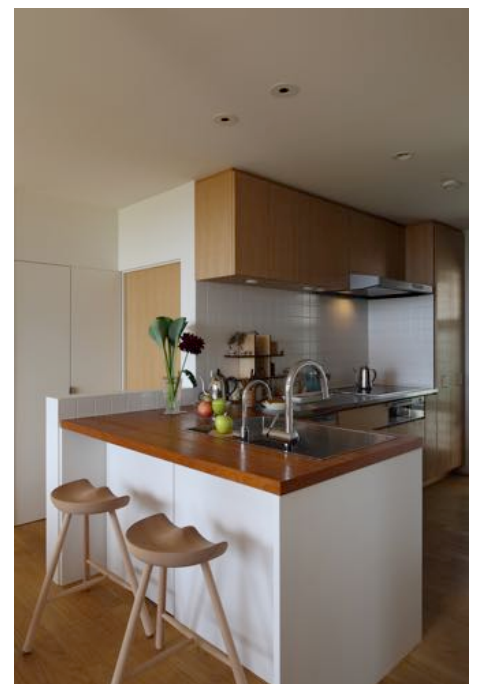
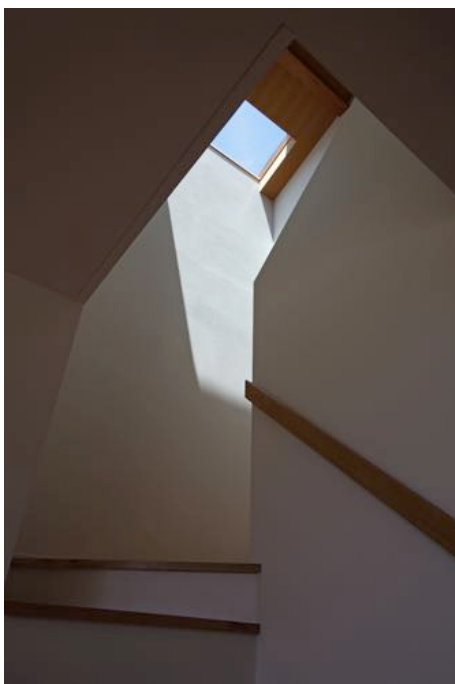
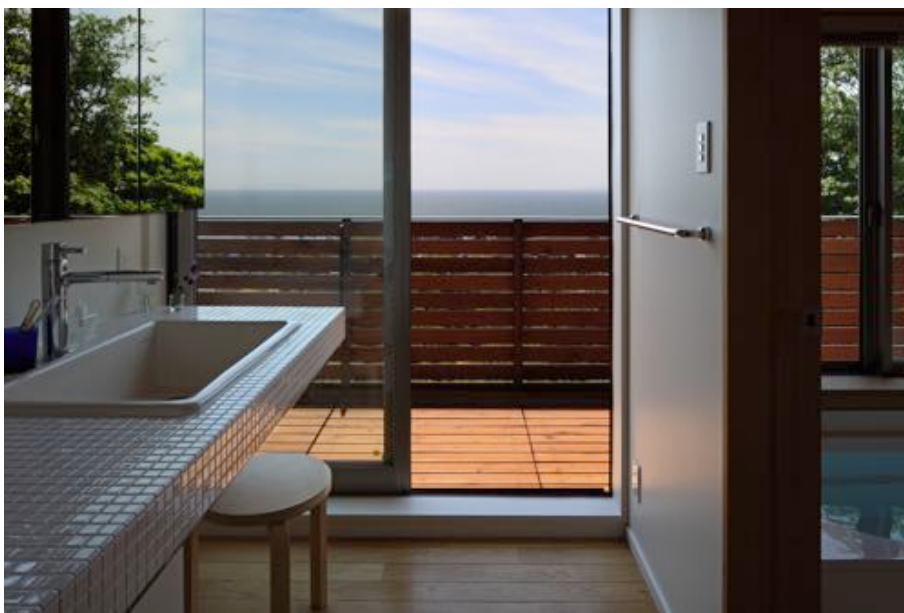
床下暖房（エアコン）
 キッチン製作



大磯の駅から徒歩で15分ほど山を登り、海を見下ろす景観に恵まれた敷地です。最初に敷地を見に行った時に、海をどう見せるかを考えるのと同じくらい、登ってくる道から家がどう見えるのかが設計の上で重要なテーマだと思われました。ここでは、深い軒によって海からの風雨から建物を守るとともに、道から見上げる視線に印象的に見える事と、海に向かって山の上で踏ん張っているかのような力強さが感じられる事を意図しています。

一方屋内の計画では、毎日の生活の中で海の景観と光を気持ち良く感じられるように考えました。海に向かって開いたリビングの木製サッシュには雨戸と障子が備わっていますが、全て壁に引き込んで開け放つことが出来ます。吹き抜けの高窓やトップライトからの光は左官仕上げの壁に柔らかく映り、季節や時間の変化を感じさせます。

温暖な気候でありながら、明け方には強く冷え込む事もある高台の環境に配慮し、床下にエアコンで温風を吹き込み、基礎コンクリートに蓄熱する計画としています。足の触れる床に直接熱を持たせる一般的な床暖房よりも穏やかで、家全体の熱環境を安定させる設計です。





「二子玉川の家」 ～眺めの良い家～

家族構成 夫婦+子3人
竣工 2009年8月
所在 東京都世田谷区
構造規模 木造軸組/地上3階
建築面積 54.20㎡ (16.4坪)
延床面積 148.14㎡ (44.8坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き
壁：モルタル下地ジョリパット左官仕上
木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：チーク無垢・ラージ無垢フローリング
壁：珪藻土左官仕上
天井：米松小幅板貼

主な設備

キッチン製作、電気式サウナ、浴室製作

多摩川の堤防から見る外観。
3階は開放的なテラスを中心に計画されました。
1階は将来カフェになるフリースペースです。



玄関から2階へ上の階段はトップライトからの光で明るい図書コーナーになっています。



2階は寝室のフロアです。
鮮やかな子供部屋の壁とリビングに上の螺旋階段。



限られた面積の中、広がりを高さに求めたリビング。ステンドグラスを製作しました。

多摩川の河川敷に面した住宅です。必要な床面積を確保するためと、恵まれた景観を活かすために3階建てとしています。

堤防の高さは2階の床よりも高く、上からの視線に対してプライバシーを守る必要がありました。そこで2階には寝室を配して各部屋毎の小窓でプライバシーのコントロールを容易にしています。一方3階は高めのフェンスで囲われたテラスを緩衝帯とすることで、リビングダイニングと浴室を開放感あふれる空間とすることが出来ました。テラスからは遠く対岸まで見渡せる広々とした景観が広がります。

1階は将来のカフェスペースとして計画されていて、現在は子供達が工作や遊びに自由に使えるオープンスペースとなっています。



不整形な平面を利用した、寝室奥の書斎。



テラスに通じる開放的な浴室。桧の浴槽と畳の床。



ロフトからは多摩川が一望に出来ます。テラスの奥は浴室です。



「桜丘の家」

～公園を借景にしたスキップフロアの家～

家族構成 夫婦+子
 竣工 2011年12月
 所在 東京都世田谷区
 構造規模 木造軸組／地上2階
 敷地面積 95.82㎡ (29坪)
 延床面積 111.32㎡ (33.7坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：モルタル下地リシン吹付
 木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：タモ無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼

主な設備

キッチン製作、蓄熱暖房器、浴室製作

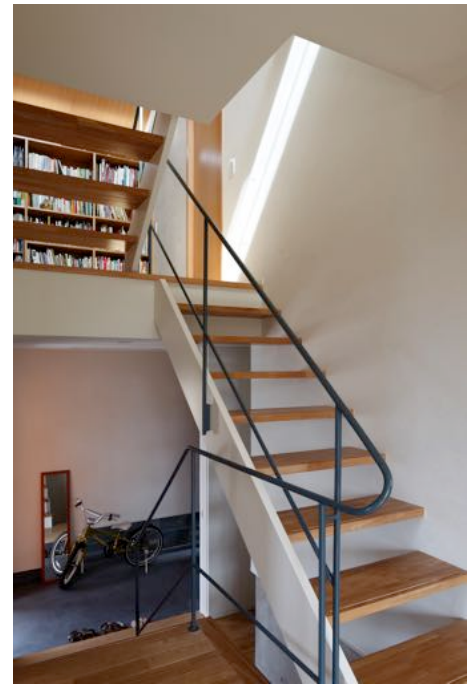
玄関ホールからリビングを見る。
 スキップフロアのため、リビングは1.5階の高さ。



敷地いっぱいに建ちながらも、公園を借景として開放的なリビングダイニング。
 地面から1.5階の高さになるため、公園利用者の視線からもプライバシーは守られる。



リビングに造り付けられたソファコーナー
壁を照らす間接照明の手前にプロジェクターの
スクリーンが収納されている。



1.5階リビングから階段を見る。
玄関の広い土間の上、階段の踊場の
様に見えるのは2階ライブラリー。

都市部にありながら緑地公園に面した緑の景観に恵まれた敷地で、公園の緑をいかに生活の風景に取り込むかが設計のテーマとなりました。

公園への見通しを良くするためと、公園を利用する人々の視線を避け家の中を覗かれない様にするために、リビングの床を半階上げたスキップフロアとしています。その結果、公園とは程よい距離感が生まれ、公園で遊ぶ子供達を見まもりながらリビングでくつろぐことが出来るようになりました。

スキップフロアを構成する階段は家の中心に配され、吹き抜けの役目を果たしています。玄関の地窓から最上階の高窓へと自然と風が抜け、家の奥まで太陽光が射し込みます。

梯子を登った高窓の外には、周囲の景観を独占できる小さな屋上が用意されています。

明るい最上階の浴室からは夕日の景観を楽しむことが出来ます。

広い玄関土間は趣味の作業スペースとして計画されました。上がり框の部分に壁に引き込める間仕切り戸が用意されていて、必要に応じてリビングと仕切ることが出来るようになっています。

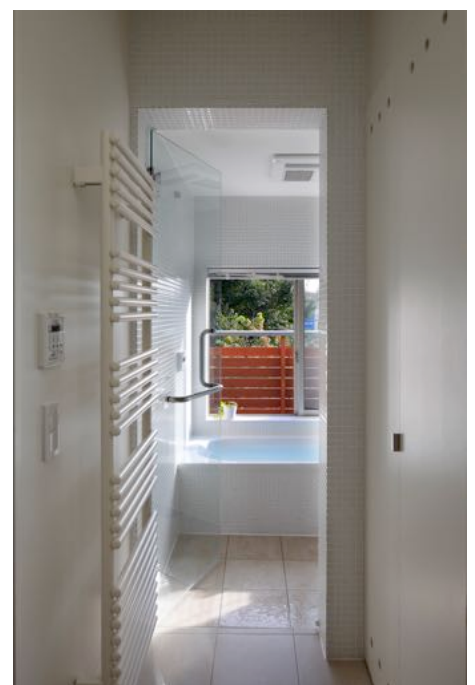
スキップフロアの採用で高基礎となったリビングの床下は広い倉庫として活用しています。



公園側からの外観。
出窓の上は屋上になっている。



2.5階の寝室から2階のライブラリー
を見る。建物の中心にありながら
光の落ちる明るい廊下。



2階の開放的な浴室からは
公園の緑が楽しめる。

「鶴ヶ峰の家」

～明るさと伸びやかさを求めた2階リビングの家～

家族構成 夫婦+子

竣工 2014年5月

所在 神奈川県

構造規模 木造軸組 地上2階

敷地面積 100㎡ (30.25坪)

延床面積 99.06㎡ (29.97坪)



主な外部仕上げ

屋 根：ガルバリウム鋼板葺き

壁　：リシン吹付け仕上

木　部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床　：ナラ無垢フローリング

壁　：珪藻土クロス

天　井：レッドオーク合板

主な設備

キッチン製作、温水式床暖房

ソーラーパネル、オール電化

緑の多い地域に開発された分譲地に建つ小住宅の建て替えでした。道路を挟んだ向かい側、南側の宅地が崖のように迫ってくる地形で、1階がリビングであった以前の家では日当たりの悪さと目の前を塞がれているかのような閉塞感に悩まされていたそうです。

そのため建て替えにあたっては、まず何よりも明るさと伸びやかさの得られる空間が求められました。

そこで長い時間を過ごすリビングを2階に配し、屋根なりのゆったりとした吹き抜け空間としました。頂部に設けたトップライトからは一年を通して終日自然光の明るさが得られます。リビングの間口いっぱい設けたバルコニーからは近隣の緑地が望めるようになり、窓を開け放せば近くの川のせせらぎが聞こえてきます。

また浴室も2階とすることでキッチンと近接し、家事動線もコンパクトにまとまりました。

限られた面積の中で、固定階段を持つロフトも設けて、収納力も十分に備わっています。



「ときわ台の家」

～光庭のコートハウス～

敷地面積 96.19㎡
延床面積 92.74㎡
木 造 地上2階

- ・家族5人が気取らずにのびのびと過ごせる家。
- ・プライバシーを守りながらも、風と光を取り込み、四季の変化を感じる家。
- ・どこにいても家族の気配が感じられる家。

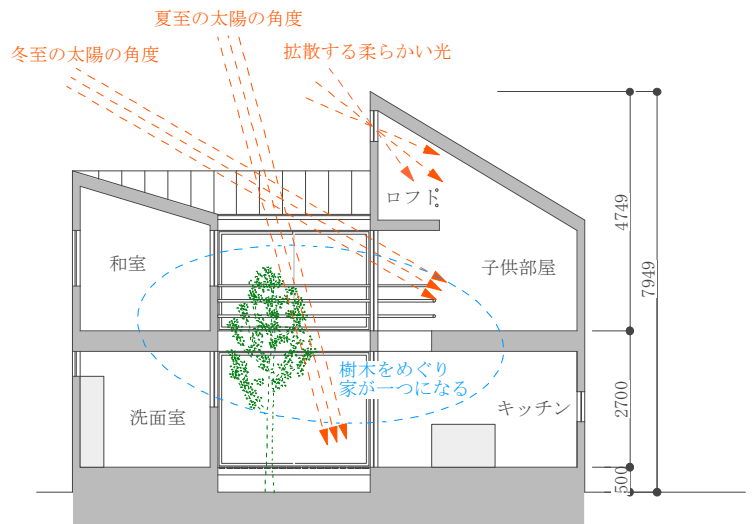
小さな中庭をコの字に囲んだ家です。

午前中は中庭からの光、午後は螺旋階段からの光が、白い壁に反射して室内を柔らかく満たします。

中庭に面する2階廊下の格子床は、キッチンの奥まで光を届けます。また、2階の子供たちと声を掛け合う場でもあります。

施主は自宅で天然酵母のパンを焼いてカフェに卸していて、将来は自宅でも販売をしたいという夢を持っています。その際はデッキ下の駐車場が仮設のカフェになります。

中庭を囲んで一体感のある、穏やかな都市住宅です。



南北断面図S. 1/150







「南台の家」

～小さな敷地を使い尽くした家～

家族構成 夫婦
 竣工 2010年10月
 所在 東京都中野区
 構造規模 木造・RC造／地上2・地下1
 敷地面積 57.56㎡ (17.4坪)
 延床面積 97.38㎡ (29.5坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き

壁：ガルバリウム鋼板葺き・RC打放

主な内部仕上げ

床：カバ無垢フローリング

チーク無垢フローリング (地下)

壁：EP塗装・RC打放し (地下)

天井：EP塗装・有孔シナ合板 (地下)

主な設備

キッチン製作、浴室製作

温水パネルヒーター

敷地コーナーを護るコンクリート造の壁は、玄関への外階段を支えるとともに、地下へ太陽光を導く光井を作っている。また高く立ち上がった壁に隠されて、道路から屋内の様子は窺えない。

西に開くダイニングは、コンクリート壁に反射する光で午前中から明るい。



門扉から玄関を見上げる。
ポーチ底は溶融亜鉛メッキ。



らせん階段の左はパソコンコーナー



敷地は古い木造家屋の密集した住宅地に在り、決して広くはない三角形の平面と、接道する2面がともに狭隘道路であるため、道路斜線も大変に厳しい条件でした。限られた面積の中で、住宅として快適な日常生活が過ごせる最低限の機能に加え、音楽を楽しむ個室と、敷地内に駐車スペースが必要とされました。さらに近接する周辺家屋からプライバシーの守られた、落ち着いて過ごせる内部空間を確保することも重要な課題でした。

建物の形態は道路斜線制限をほぼ再現しています。三角形の敷地形状から生まれる不整形な平面と、斜線制限から生まれる傾斜した壁とを不自由無く利用できる様に検討を繰り返しました。

玄関へのアプローチ階段を支えるコンクリートの壁は、プライバシーを守る目隠しでありながら太陽光を導くりフレクタとしての役割を持ち、西向きのダイニングに午前中から明るさをもたらすとともに、地下室へ光を導く光庭を構成しています。また狭隘道路の交差点に建ち、いつ通行する自動車に接触されても不思議のない環境に対しても、コンクリートの壁は視覚的にも安心感を提供しています。

地下から最上階のロフトまでを貫く螺旋階段は、吹き抜けのように家全体をひとつの空間として結びつけ、また視野を遮らないことで伸びやかな内部空間を演出しています。その一方で、上下階をつなげることで偏りがちになる熱環境に対しては、パネルヒーターで家全体をコントロールすることでバランスを保っています。

地下リビング。天井は反響を抑えるために有孔合板としている。



地下から螺旋階段を見上げる。



2階寝室。
右側収納は傾斜した壁と床との入隅を利用したドレッサー。



2階浴室。
道路斜線の影響がわかる。



「土支田の家」

～日本家屋の リノベーション～

家族構成 夫婦+子
 竣工 2013年3月
 所在 東京都練馬区
 構造規模 木造軸組／地上2階
 延床面積 177㎡ (53.5坪)

主な外部仕上げ

屋根：瓦葺き
 壁：ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー

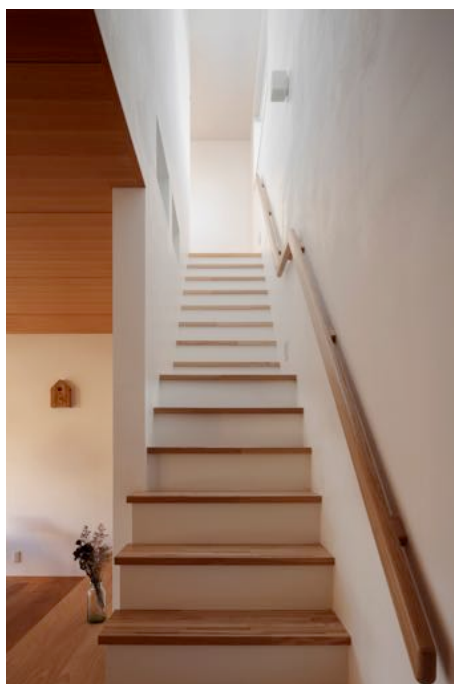
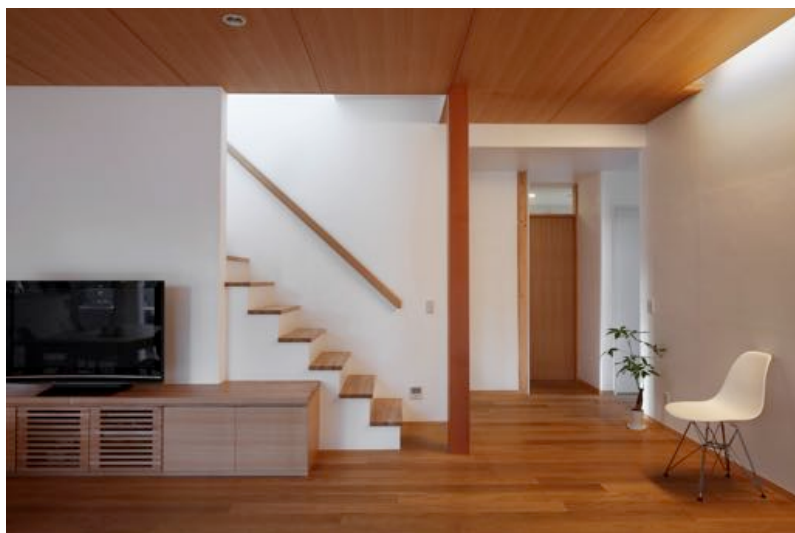
主な内部仕上げ

床：オーク無垢フローリング
 壁：漆喰左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼

主な設備

キッチン製作、温水式床暖房





玄関框と真壁の柱は昔の家のものを削り直して使っています。

築30数年の家のリノベーションです。一度骨組みの状態まで解体してから全てを新しく作り直しています。今の暮らしに合った使いやすい間取りへと変更するに際して、広い庭に面して建つ恵まれた環境を活かすよう開放的なリビングを計画しました。もともとの構造の制約がある中での計画は難しくもありましたが、かえって昔の家の思い出と新しい暮らしとをバランス良く構成する事が出来たと思います。構造補強、断熱補強、間取り変更と、建て替えと同じくらいの費用と時間が必要なため大変迷われていらっしゃいましたが、引き渡しの際には「父親の建てた家をまた残す事が出来てよかった」と仰っていただけました。



昔の家。こたつのところが新しいキッチン場所です。



玄関横の接客スペースとその奥に事務室



「西ヶ丘の家」 ～交差点の家～

所 在 東京都北区
 家族構成 夫婦+子 2 人
 竣 工 2011年4月
 構造／規模 木造軸組／地上 2 階
 敷地面積 121.90㎡
 延床面積 129.19㎡

主な外部仕上げ
 屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：モルタル下地ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー
 主な内部仕上げ
 床：チーク無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼
 主な設備
 温水式床暖房（リビング） キッチン製作



交差点の家

交通量の多い交差点に面した敷地で、家族のプライバシーと安全を確保する必要があるため、1階は玄関ポーチと光庭を緩衝帯として直接外に開かない計画とし、2階は庭代わりの広いルーフトラスを高いフェンスで囲んで大きな窓面を確保しています。1階には光庭とそれと接したリビングの吹き抜けで光を導いています。

光庭と吹き抜けの効果が合わさることで、明るく風通しの良い、視覚的にも抜けと広がりのある空間となりました。

家のどこにいても家族を感じられるあたたかな家です。





「松戸の家」 ～大らかな吹き抜けの家～

家の大きさをいかした、家族が皆のびのびと過ごせる、明るく広がりのある家です。

家全体をつなぐダイニングの吹き抜けは生活導線の中心であり、オープンな階段が家族皆の行動を明らかにして家族の気配を伝え、ひとつの家としてのまとまりをつくっています。

ダイニング横にはリビングとは別にファミリースペースを設け、学校から戻った子供達は主にここで過ごしています。2階にある子供部屋とは梯子で結ばれていて、子供達は梯子を昇り降りして近道をしています。子供達が成長するにつれて、2階の子供部屋との使い分けが出来る事を意図しています。

ダイニングとは対照的に高さを抑えたりビングは、植栽の豊かな庭へと視線を誘う落ち着いた空間を作っています。庭側の開口を低く抑える事は隣家の視線からプライバシーを守る事にも役立っています。

吹き抜けに面した2階の広いルーフテラスは第2の庭であり、子供達の遊び場になるとともに、夏には吹き抜けのガラスを覆う緑のカーテンを育てています。





家族構成 夫婦+子 3 人
 竣工 2011年5月
 所在 千葉県松戸市
 構造規模 木造軸組／地上2階
 敷地面積 258.8㎡ (78.42坪)
 延床面積 186.04㎡ (56.37坪)

主な外部仕上げ
 屋根：ガルバリウム鋼板葺き
 壁：ジョリパット左官仕上
 木部：レッドシダー
 主な内部仕上げ
 床：チーク無垢フローリング
 壁：珪藻土左官仕上
 天井：レッドオーク合板貼
 主な設備
 キッチン製作、温水式床暖房、浴室製作





「めじろ台の家」

～完全分離型の
2世帯住宅～

家族構成 夫婦+母
竣工 2012年4月
所在 東京都八王子市
構造規模 木造軸組
地上2階 地下1階
敷地面積 209.81㎡ (63.47坪)
延床面積 192.49㎡ (58.23坪)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板葺き

壁：ジョリパット左官仕上

木部：レッドシダー

主な内部仕上げ

床：ナラ無垢フローリング

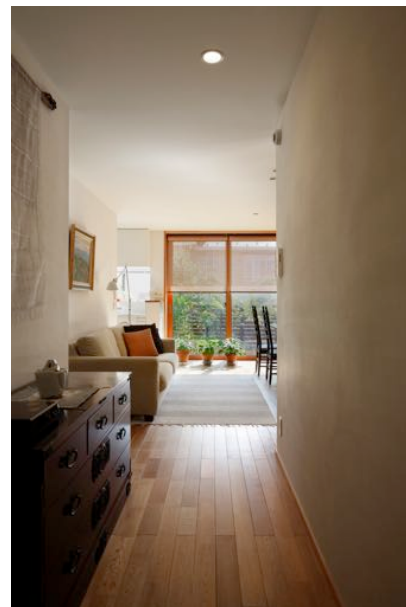
壁：珪藻土左官仕上

天井：レッドオーク合板貼

主な設備

キッチン製作、温水式床暖房

1階の親世帯

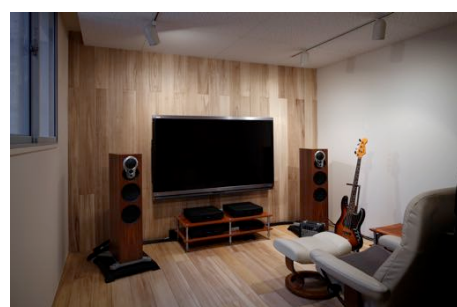
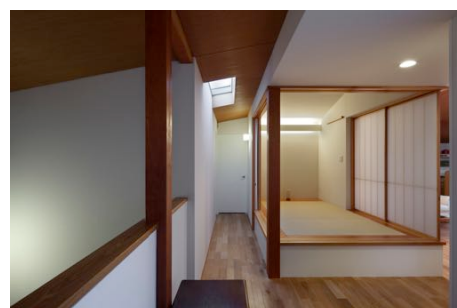
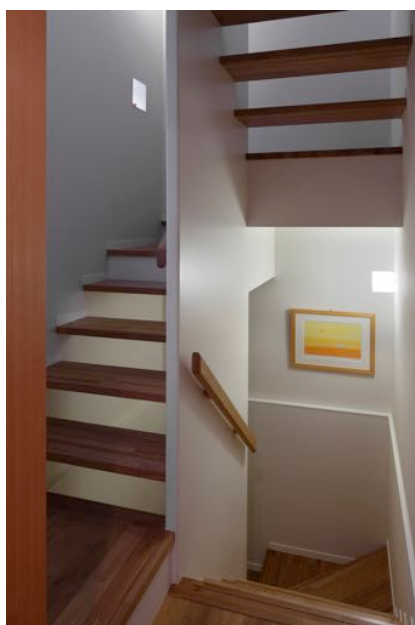




日当たりの良い敷地に建つ2世帯住宅です。敷地が道路よりも高くなっているため、その高低差を利用した地下1階地上2階のL字型の家です。1階の庭に面した部分を親世帯に割り当てています。

1階の親世帯には、庭とのつながりを楽しめるように水平に視線が抜ける落ち着いた空間構成を、子世帯の生活の中心となる2階では、周囲に開けた環境をいかして空を感じられる明るさと広がりを用意した計画としています。

1階の隣り合った2世帯それぞれの玄関には土間をつなぐ扉が設けられています。



地下防音室のオーディオルーム

「越谷の家」

～庭に開いた吹抜けの家～

家族構成 夫婦+子供2人

竣工 2009年1月

住所 埼玉県越谷市

構造規模：木造軸組 地上2階

建築面積：85.10m²

延床面積：142.45m²

(1階80.14m² 2階62.31m²)

主な外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板たてはぜ葺

外壁：ガルバリウム鋼板たてはぜ葺

レッドシダー キシラデコール塗装

デッキ：レッドシダー キシラデコール塗装

主な内部仕上げ

床：ナラ無垢フローリング蜜蝋ワックス塗装

壁：珪藻土左官仕上げ

天井：ピーラー小幅板張りオイル拭き

主な設備

ガス温水式床暖房

キッチン製作

御実家の敷地内に建てるという計画で、設計では敷地の持っている魅力を損なわないように、間取りも外観も出来るだけ素直にシンプルに考え、のびのびとした大らかさを感じられるように考えました。

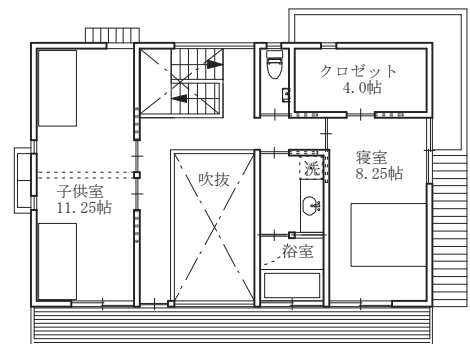
広々とした庭を母屋と共有出来る恵まれた条件を生かすために1階をリビングとし、引き込める木製サッシュや広いデッキを設けて庭に向かって開放的な作りとしました。

一方で前面道路側は、時間によっては人通りも多いため、比較的閉じた表情としています。

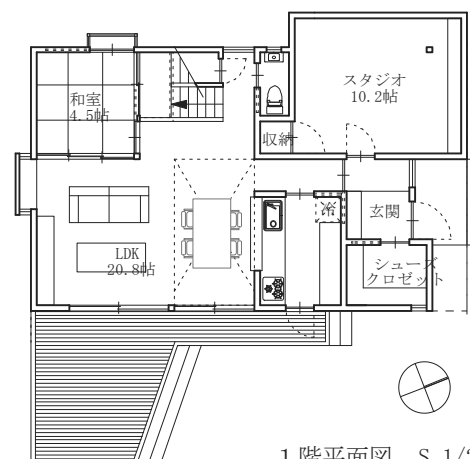
ダイニングの上は吹き抜けとしていて、大屋根で包まれたおおらかな空間を感じるとともに、1、2階の気配を伝えあい、家全体のつながりをつくり出す役割を持っています。吹き抜け回りは単なる廊下ではなく、手摺に本棚を組み込んで、明るく風通しの良いギャラリーとしています。

自然素材を多用したインテリアは、少し懐かしくも優しい空間となりました。





2階平面図



1階平面図 S. 1/200



親世帯リビングから庭ごしに半層上がった子世帯のテラス

「関町の家」 ～別棟型の2世帯住宅～

敷地面積 335㎡
延床面積 266.55㎡
木造 地上2階、地下1階
主な設備 蓄熱式床暖房（イゼナ式）

可能な限り分棟に近づけて、それぞれ戸建てに近い環境を得ると共に、中庭やアプローチなど2棟の「隙間」をデザインしています。平面的な配慮と共に、2棟のフロアレベルを半層ずらして見合いを避けるなど、相互のプライバシーを重視しながら、庭を共有することで2世帯の交流にとって快適な距離を確保しています。

2棟を東側に開いたL字型に配置して庭を確保していますが、東側隣家の庭も借景となって面積以上の広がり感が得られます。

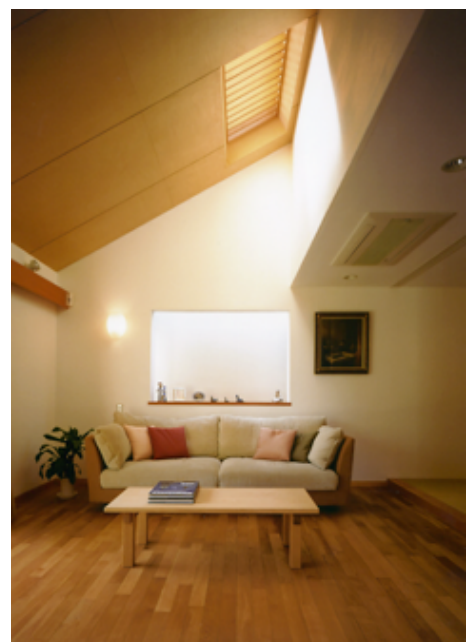
設備面では両世帯ともイゼナ式床暖房（深夜電力蓄熱型）を採用していますが、子世帯では床面だけではなく地下室への天井面からの輻射を期待しています。



親世帯玄関を挟み、左子世帯



親世帯は平屋、階段上は納戸



親世帯リビング



親世帯のリビングを見る
右に子世帯棟



子世帯リビング

奥のダイニングとは引戸で
仕切ることが出来る



半地下の書斎

天井裏の蓄熱体によって
輻射熱が得られる

「南伊豆の別荘」

～海を望む別荘～

竣工 2008年12月

住 所静岡県南伊豆町

構造規模：木造軸組 地上2階

建築面積：52.30m²

延床面積：94.00m²

(1階49.69m² 2階44.31m²)

主な外部仕上げ

屋 根：ガルバリウム鋼板葺

外 壁：杉板 キシラデコール塗装

木製建具製作

主な内部仕上げ

床：ラージ無垢フローリング オイル塗装

壁：ラワン合板貼 オイル塗装

天井：ラワン合板貼 オイル塗装

主な設備

キッチン製作

シーカヤックを楽しむための拠点として、伊豆半島の突端に計画された別荘です。

アプローチから海へ南北に抜ける1階の通り土間は、広い玄関であるとともにカヤックを収納するスペースでもあります。

通り土間と同じく南北に開き、周囲の深い森を楽しむ、木立の合間から海を臨む2階のリビングは、壁と天井を全てラワン合板で作られ、ソリッドな印象でありながら木に包まれたぬくもりも感じられます。

豊かな森に囲まれた環境を楽しむ一方で、海から吹き付ける風雨に備える必要から、1階の通り土間と2階リビングの大きな木製建具には、外壁と同じ仕上げの雨戸を用意しています。







「鳴岩の山荘」 ～カラマツ林の山荘～

延床面積 112.32㎡
木造 地上2階

蓼科のカラマツ林に囲まれた別荘。
自然と交流する開放的なリビングと
プライバシーを守る個室との対比を
一枚の大屋根で建築にまとめた。



「早稲田実業学校 国分寺校舎」

ゼネコンの設計施工に対し、学校側のコンサルタントとして、
設計指導、現場監理、家具・道具・サイン計画の
立案・コーディネートを行いました。



低学年児童の遊び環境を設計



伐採された雑木林の木から
小学生のための家具を製作
製作：オークヴォレッジ



中央庭園を囲む、建物の外観が曲線を描く。



大規模な開放的な空間。



建物の内部空間。



建物の内部空間。



Nagahama Nobuhisa

長浜 信幸

個々の人間、個々の居場所の関係を
きちんとデザインすることで
家ができてくると考えている

住宅設計は依頼依頼ききたいなもの、という真逆建築家
自分のタラシは出るが、設計は建築、建築以外のものには入りたくない。
家をつくる時にまず考えるのは、その場所を、
そこに住む人たちがどう使ったらいかなというところ。
そして、その人たちの関係から、個々の空間の関係をとらえてデザインしていく。
長浜さんの家づくりの考え、聞いてみよう。

photograph/吉村雄策 (上掲)・高橋 浩 (写真)・text/渡辺 孝

「自分の家は依頼されること、まず人に任せておきたい」という考えが
多いのですね。依頼があつて、誰が住むのかも決まっていますよね。その場所も、その人
たちもどう使ったらいかなというのをまず考えます。何と何かにする前は、その時のま
います。土地の性質をわかって、「どんな家が建ちますか」という案がなくても大丈夫でいいと思
うんですね。

「家づくりの土壌によって、住みやすさや家づくりの方向性も変わってくる」といいますね。

そうですね。その土地のいいところもあれば悪いところもある。田舎だったりとか、都市に
ちがあるけども、その環境が何となく人付き合いが生きやすい場所なのかとか、そういうのも全
面見てですね。自分の考えだけを押しつけて、「都市だから建てるべき家がいい」というのも駄目だ
と思うし、建築家に依頼する時、いろんないい方を考えるんですが、結局に帰ると、住んで
たイメージとかその人と家の相も結構関係が深いので、その人に合う合わないところもあるし、
それは、他社でも同じなんです。他人の家も自分の家は違うから、建っている場所も、住んで
いる人も違うので、そこそこへんの相性が合わない家はやっぱりない。あと、「世帯規模が
小さい家ですか」ともいいますね。「世帯が3人ほどというところは結構いい家だ。あんなに
材料とか、あんなに外装のものはなりやすいんです」と。だから、まずそこをデザインする
1つたとかは特に意識していません。結果的に特異な点に出るものはどうしてもあり
ます。

「設計する際には、建築主さんの暮らしの考えや価値観を一番に意識しています。その人な
りな考えを尊重しています」

平家の話と家の話とが、両方多いですもんね。ただ、何かしら問題が起きたり、機能的な
たりがないと家が建ちていかなければ、やはり早い段階でたまたまはつくりますけど、あ
まりイメージを決定してしまわないように気を付けています。設計段階は長い時間取ら
れますが、時間をかけた方がいいものだと思います。家によって、いろんなケースが
あります。

「住宅設計においては、空間環境をどう考えているかが」

かなり思い切ったワンルームにした家もありますけど、単純に建築費をいくつかに割に
ますよね。その場合、ただ家を建てたからで済ませるような家にはしたくない。個々の人との関
係、個々の環境の関係をきちんとしてデザインすることによって、家づくりがもっともよくなると思
います。その時
にリビングとみえるようなある意味家の中でパブリックな部分の水エントランスとかを
今までの設計した家でもリビングがでかい家としてはいらない。部屋の中には壁に、いい
イスが多いですね。人が集まることを考えて、そののまわりに飲食店やカフェや施設を合
して個室をつまみつけているのだから、それぞれの関係が違ってきます。その中で家をつ
て、その家についているといふのが多い家があります。



左が平屋の居住棟、右がスキップフロアの平屋棟。中庭を挟んで隔れ、関係。

この建築家に会いたい！

やはり、家族がどう使うかが重要になってくるんですね。

どう使うかという点、自分自身もここにいるか、まずおね、部屋を金銭的にどう使うか、リビングでも部屋をよってベッドルームに行くというように空間を切っていく、勝手に勝手に家の敷で降りていくみたいだし、またじゃなく、連絡していいから、家としての一体感や安定感と思っています。キッチンで朝の顔をみつけているのが、朝だけじゃなく、家族も向かい合えることか、それそれが家族の生活に入ってくることか。

デザインについては、どのように進んでいますか？

あまりやり過ぎないことを心がけています。建築設計のデザインですと、店にいる30分くらいで建物を見えなければいけないからある程度デザインすることも必要ですが、家は何年も住むわけで、あまり建物の主様が嫌いとすると、飽きますよね、だんだんと住む人に家が馴染んでいくってほしいと思っています。

平屋はそれの住んで空間は、シンプルですっきりとした印象があり、気持ちのよさも感じます。

その中に意識してやっているとわけていらないんですね、もちろん、気持ちがいいとおっしゃっていたのは、僕としてはすごく嬉しいんですけど、気持ちがいいってどういふことをその家主様がなんでもかきいふんです。ただ、家は人に住めるためにつくられるんじゃないと、どういふことは進んでいますね。

建築家からは、住んで知ることなんことを求められることが多いですか？

手裏の中で設備的なものもささく建築家さんといっている人もいますし、設備を壊したい人もいますし、よい材料を使いたいという人もいますし、それから、建築家さんの家の設備や設備も知られますよね、それがなくならないで家に住まないし、この4つの中でバランスをとって、一緒に考えていく、あつちのことも建築家さんが、僕と2人組んでいくんです。僕が今まで何回かつくった家でも設備を壊していたらいてる方が多いから、いきなり材料にどういふふうな人は建築家にはいないですね。

3年前に自邸を建てられたそうですね、建築家さん自身が設計者であり、監工だったわけですが、いつもと何が違うことはありましたか？

自分の家といふのも、モデルハウスにするつもりはありませんでしたから、実際に建築家といふだけでは、いつもの仕事とやり方は変わりますからね、ただ、でもそれはわかるように、といふのが、やっぱりデザイン・イン・アクションは必要になっていきましたね。実際のところは家の完成になるまで、よくわからないところがあったり、出来上がるまで黙って我慢してくれていたように感謝しています。

自邸は建築家としての経験が活かされたと思いますが、建築家としての経験が活かされたと思いますか？

他に個々の建築家の経験を活かしましたが、それをもっと拡大して、同じ敷地の中に家族が住むということですね、世の中には、大規模な家もあるし、まるっきりアパートみたいな方が多いというところもある。それは家族によって違うと思うんです。自分の場合は同じ敷地に家族が住んでいるから、建築家としての経験が活かされたというところがある。ただ、人に設計させたから、建築家の経験はデザイン・イン・アクション、敷地のあって、「家は人の生活が見えるんだ」とか、「家は住みやすいけれど、風景はさうだ」とか、同じくこの関係も保ちながら、それぞれの家族の環境を、ここからへんにつくっていく場所、そこはさういふ場所をつくって



開放感のあるリビングから見える中庭。



敷地面



土/石造りの新築時の玄関。平屋時代の家は土/石造りの玄関。土/石造りの新築時の玄関。



敷地面・1階平面図 1/400

1階平面図の縮尺



2階平面図

長谷部 Data

建築士としてのキャリアは、1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。

建築士としてのキャリアは、1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。

います。

「家族の成長」

何しろ、家族は、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

「家族の成長」は、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

例えば、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

「家族の成長」は、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

例えば、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

「家族の成長」は、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

例えば、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

「家族の成長」は、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

例えば、子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。子供が成長して、建物も変わっていくという感じ。

Profile 長谷部

1964年生まれ。1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。



長谷部 隆司
建築士としてのキャリアは、1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。1980年代後半から1990年代前半にかけて。